第２回歴史文化基本構想策定委員会議事録

開催日時：平成３０年２月７日（水）１０時～
開催場所：徳島市役所　５０１会議室
出席委員：高橋啓（委員長）、須藤茂樹（副委員長）
有内則子、市村治、茨木靖、黒田忠良、坂口敏司、菅原康夫、長谷川晋理
藤本宗子、鈴田善美、浦聡明（代理・川淵崇之）、藤井速資
事 務 局：西名武、建島美穂、勝浦康守、三宅良明、宮城一木、西本沙織

【目次案（構成）について】
委　員
構成文化財とストーリーのところで（１）（２）・・・とあるがおおむね２つくらいのストーリーを想定しているのか。

事務局
スペースの関係でこのように表記とさせていただいた。２個と決まっているわけではない。

委　員
ストーリーというのはある程度このメンバーでそれぞれ担当して決めていくのか。

事務局
策定委員会のなかでまずは事務局案を出させていただき、委員会のなかで内容を練っていきたいと考えている。

委員長
これは事務局案のたたき台ということで考えていただければ。こういう切り口がおもしろいとか、いろいろな考えがあると思うので、みなさん知恵を絞って考えてほしい。基本構想の報告書は平成３１年度に完成ということで、これから時間をかけて作っていくようなので、今すぐにこれで決まったということではなく、事務局が現時点でこういうことを考えているということのようだ。報告書に関しても、これからもっとこういう内容を入れるべきではないかという意見が出てくるかもしれない。

委　員
文化財保護行政からはしばらく遠ざかっているが、これは文化財保護法改正の動きとも関連して、基本構想のあとには基本計画を作っていくということで良いのか。また、最終的な基本構想の目的がどこにあるのかがまだよくわからないので、市の考え方をきっちり最初に提示すべ

き。ストーリーは指定文化財が核になってくるだろうが、指定文化財は法的根拠がありそれに担保されている。しかし、地元にとって大事なものは探せばいくらでもあるだろうから、それらをたくさん集めたとしても現在国が考えているような流れにはならないのではないか。それをどうにかしたいのであれば、市で独自の登録文化財制度を作ったらどうか。

事務局
市で独自の登録制度を整備するかどうかについて、構想の中に盛り込むかは決まっていない。もちろん、歴史文化基本構想のストーリーはすでに指定されている文化財が核になってくるとは思うが、それにぶら下がるような形で、未指定文化財についても徳島らしいものであれば多く入ってくると思う。それ以外の細々としたものについては、地元で引き続き保勝してもらうなど、ストーリーに入るものと入らないものでは、構想のなかで別の保護の方法を考えていかないといけないと考えている。

【文化遺産リストについて】
委　員
リストを見ていくと知らないことばかりで、改めて徳島市内にたくさんの文化遺産があるということがわかった。これらを受け継いでいくためには、やはり未来を担う子どもたちのいる学校現場におろしていただいたら。人形浄瑠璃でも、受け継いでいくために学校で出前授業をやっている。小学校・幼稚園あたりで、地域の文化遺産を見に行くような時間を作っていただくというように、教育で活用できるようにしてほしい。

委　員
リストのなかで、「建造物」の種類に分けられているものが大量にあるが、神社やお寺は改築されて新しいものが多いので、建造物という種別で良いのかどうか。神社やお寺というのはその場所が昔から動いていないから大事なのであって、建物としての歴史的価値はほとんどないものが多い。建造物と言うジャンルにわけられていると非常に違和感がある。**（↑会議後、事務局で「寺社」に訂正統一）**また、最近県が「まちなみ百選」というのを選定したところで、伝建地区に続くような歴史的なまちなみを推薦している。これを見ると、徳島市内にもなかなか良いまちなみがたくさん残っているのだが、そういうところがリストに入っていないのでさみしい。これはまだどちらかというと点的なリストだが、まちなみといったら点ではなく線である。例えば、佐古の戦災で焼け残ったまちなみや蔵本の伊予街道沿い、北島田、八万町夷山の石垣の続くまちなみなど、たくさんあるのにこれらが一つも入っていないのが残念。

事務局
地区保勝会に記入式のリストを配布して照会をかけたので、どうしても点的なリストになってしまっている。今後整理していくなかで、地域に残る歴史的なまちなみを加えたり、不均等なところを修正したりするなどし、わかりやすくしていきたい。

委　員
まだ生資料なのでこれから整理してくれるということのようだ。リストには、徳島城内である中央公園内のラジオ塔や小便小僧などが入っているが、これは地元では大事なものかもしれないが、文化庁の定義する史跡のなかにあるものとしてはふさわしくないように思うが。大事なものとそうでないものはきちんと整理したほうがよい。

委　員
例えば丈六地区では丈六寺の個別の寺宝が全部入っている。一方で、〇〇に収蔵とだけなっているものもある。難しいかもしれないが、個別に出すものとまとめるものを精査していくべき。国府地区と矢野地区の両方に国分寺が入っている。**（←会議後、国府地区と矢野地区を統合）**まずはたくさん出すことは重要だが、全部が入るべきではない。これからストーリーを作りながらやっていくべき作業になるだろう。

委員長
このリストは、地区によって、担当した調査員によってもまだかなり差があるようだ。

事務局
保勝会がない地域や丈六寺顕彰会というような個別の会もある。もちろん、丈六地区は寺だけでなく地区という枠で整理すべきと考えている。**（←会議後、丈六地区のリストを追加）**リストは、地区の保勝会員から提出された手書きの資料を読みやすくまとめただけの段階なので、委員会を進めていくなかでも精査していく。また、今回情報提供のあった歴史的まちなみなど、外せないと考えられるものを順次加えていきたい。

委　員
これらの膨大なリストのなかで、指定文化財の割合はどれくらいなのか。

事務局
指定文化財リストは資料冒頭に添付させていただいている。指定文化財は市内にはたくさんあるが、博物館や寺社に収蔵されているものが多いので、地元からあがってきたものの中には少ない。

委　員
完成した報告書にこのリストを掲載するのであれば、ある程度の統一した編集方針をもとにリストを再編集しないといけない。この地区では入っているのに他の地区にある同じものは入っていない、というようになってしまう。

委　員

他県での構想では文化財と文化遺産はどのように区別されているのか。

事務局
文化財は指定されたものを指すことも多く、これらの文化財よりも広い意味で、周りの環境なども含めた歴史的なものに文化遺産という表現を使っていることが多いようだ。

委　員
「まちなみ」の話に例えるとわかりやすいのではないか。まちなみは、建物そのものだけでなく、年中行事や周辺環境など歴史的背景をも含めたもの。リストからはなかなかストーリーは作れないので、ストーリーを考えていくなかでリストを資料として使うべきだろう。

委員長
リストについては、ストーリーを検討していくなかで必要なものなので、これからも審議を続けたい。

【ストーリー案について】
委　員
テーマの１から６について時代ごとに区分されているが、これではストーリーをつくったときに、全国に発信できる徳島市らしい売りが出にくいのではないか。時代順に並べているだけではどこの市町村でやっても同じようになるだろうし、これではストーリーの魅力がない。もっと重要なストーリーが、時代がかぶっていてもあるはずだから、そういうところを頑張ってほしい。例えば、縄文～古墳時代に徳島市の売りといえば青石である。特に西日本には青石が徳島ブランドとして運ばれている。淀川流域、現在の大阪府高槻市や茨木市などでは青石の石室がたくさんあり、国府町や石井町あたりの石材が使われたと考えられている。これは近畿の人間が徳島の青石を重要視していたということで、これがストーリーになる。あとは「朱の道」として県南から朱（赤色顔料）が運ばれた鮎喰川流域の集落遺跡、そして徳島で作った銅鐸である名東銅鐸や星河内銅鐸などもストーリーの要素になるのではないか。このようなもので組み立てていくと重層的なすばらしいストーリーができる。

委員長
確かに、若干通史的であると感じたので、もう少しインパクトのあるようなものがいいと思った。一方で、このストーリーは一般市民にも文化財に対する関心や理解を深めてもらうためのものでもあり、そのあたりの兼ね合いが重要になってくるだろう。

委　員
他の地域の報告書では通史的なものが多いのか。テーマ的なものが多いのか。

事務局
地域によっていろいろである。必ずしも通史的にやらなければいけないわけではない。

委　員
さきほども指摘があったが、国分寺庭園や八万町夷山の青石塀など徳島では近世でも特徴的に青石が使われているので、青石をテーマとし、時代を超えてとりあげても良いと思う。ただ、県外のひとに理解してもらうためには通史も大事で、細かいものではなくてもいいので、ざっくりとした通史があっても良いのではないか。古代の特徴として、近畿圏とのつながりを示すことで、近畿圏の人は徳島に親しみをもてる。うまく時代とテーマがあうようにしてほしい。また、近世は徳島城下町とか藍が大きなテーマとなってくると思うが。藍は吉野川流域全般にあるので、徳島市にしかないのは徳島城と城下町は外せない。テーマ性と時代から、徳島市はこのような変遷を経てきたのだということが地域の子どもたちや県外の人にもわかるようにすべき。県外の人が自分の住む地域と徳島とはどう違うのかという特質性を感じ取ってもらえるような構成が良いと思う。

委　員
点と点を面にするということだったが、阿波十郎兵衛屋敷では「暴れ川である吉野川があって、その氾濫によって運ばれた肥えた土で藍が育ち、藍商人の財力によって人形浄瑠璃が栄えた」という説明をいつもお客さんにしている。テーマ８と９はつなげても良いのではないか。また、徳島は川に囲まれていることから橋が多いので、橋めぐりのような視点もあると思う。吉野川フェスティバルのような行事も長く続いているが、その花火も吉野川から見るとすばらしい。ひょうたん島クルーズも徳島ならでは。文化遺産とは言えないかもしれないが、川とのつながりで入れたらおもしろいのではないか。また、吉野川の「青のり」のにおいがすごく良いという話も聞いた。他にも滝のやきもちや「かきまぜ（ちらし寿司）」、そば米雑炊、お菓子などの食文化にも古い歴史があって、もう一度見直せるものが多いのではないか。花めぐりなども面白いかもしれない。

委員長
テーマ９に関して、城下町の人々の暮らしを考えるうえで「水」は切り離せないので、「水と暮らし」というようなテーマもできるのではないか。昔は水売りがいて、現在も眉山山麓など市内各所に湧き水があり、地域によっては酒造りもさかんである。また、福島橋にある人柱伝説など、城下橋物語というのも面白い。橋がない時代の「渡し」の跡も各所に残っている。それから、水上交通という点ではかつて巡航船が徳島から撫養まで走っていた。もう１つ大きいのは洪水災害で、高地蔵が洪水災害にかかわるとしたらこれも災害遺産であるし、八万の夷山のまちなみの石垣も洪水対策といわれている。城下町の周辺部では、袋井用水や以西用水など江戸時代以降の農業用水が現在も活用されている。非常に地味な問題だが、水と市民とのかかわりというのは重要で、総合的にひとつテーマを作ったら面白いのではないか。そして、近世を考えるうえでは徳島城跡や藍は外すことができないし、人形浄瑠璃も阿波を代表する民衆芸

能である。これらを組み合わせたらおもしろいストーリーが出来あがるのではないか。

委　員
ユネスコのパリの庭園に徳島の青石が使われているという話を聞いたが、ストーリーの参考になるのでは。

委　員
年中行事やお祭りについて、リストにはあるのにストーリーに触れられていないので、そういう観点からも季節ごとに追っていけるようなストーリーを作ってはどうか。

委員長
「城下町の四季」ということで、季節の移り変わりのなかで、夏は春日神社の祭り、四所神社の船だんじりなど。その中で時代は新しいけれどお鯉さんや林鼓浪さんなども評価できるのではないか。

委　員
川の話のなかで出てきたのだが、以前行った近代化遺産の総合調査では、建物はほとんど橋だったのが思い出される。徳島市には川が多いので、道路橋や鉄道橋、堤防をくぐっていくような変わったものなど、川があるがゆえの土木構造物みたいなものがたくさんあって面白い。三角州にまちができてきたという特徴を示すのではないか。橋は新しいものはコンクリートだが、古いものでは青石をかけただけのものやレンガ積みの橋脚のものもある。鉄橋も新しいものはｈ鋼のような桁の大きいものだが、古いものだとトラス構造。新しいものは溶接、古いものは鋲のようなもので止めているなど、構造を見ていくと面白い。これも橋の多い徳島ならではだと思う。

委員長
阿波藍をテーマとした場合に、どういう世界が描きだせるだろうか。

委　員
藍商がお金をたくさん持っていていろいろな文化を取り入れたことは意外と知られていない。

委　員
徳島では藍屋敷はどこにあるのか。

委　員
矢三の高橋家住宅などが藍屋敷とされている。

委　員

日本遺産の関係でいろいろとまわったが、徳島市はどちらかというと藍の集散地なので、藍の生産に関連する資産はほとんど残っていないのが現状。

事務局
たしかに良好には残っていない。かつて応神や川内では藍を大量に栽培していた。現在も砂岩の土台をもつ基壇のある家がまちなみとして残っているが、蔵や寝床は残っていない。

委　員
これらの資産をおさえることができたら徳島市らしい歴史文化の売りになる。

委　員
徳島市は藍玉すくもの集散地で、藍問屋としてのまちであった。当時関西から商人をよびよせて値建てしたという藍大市が開かれた場所は特定できるのか。

事務局
西船場あたりではないか。

委　員
「かつてここに藍大市開かれし」と看板をつくっていただいたらわかりやすい。

委　員
新町川は徳島市らしい文化的景観として、ひとつのコアになるのではないか。

委　員
昔は新町川の水面にはえる白壁の藍蔵が立ち並んでいた。最近文化財指定された筒描きなどの藍染め技法などと組み合わせてはどうか。

委　員
「藍場浜」など藍に関連する地名の由来もみな知らない。

委　員
阿波銀行も藍商人と関係があるのでは。

事務局
阿波銀行の前身は、藍商人であった久次米家が設立した久次米銀行なので関係がある。

委　員
現在の阿波銀行本店があったところがもともと商工会議所で、その横に阿波銀行があったが戦

争で焼けてしまった。藍の大市が開かれていたのも久次米家の屋敷があった今の阿波銀行あたりではないだろうか。

委　員
国府にも何軒か藍染をしているところがある。染物工場群もつかむことができるのでは。

委　員
福島・安宅の家具や鏡台などの木工業が抜けているが、徳島らしい産業の１つといえるのではないか。明治からの産業遺産として入れてはどうか。

委　員
どちらかといえば江戸時代の造船業からはじまっているので城下町のほうに入るのではないだろうか。

委　員
あれもこれもいれると混沌とするので、最後は柱を作って、その発展系として関連するものを入れると良いのでは。近代産業としての木工がなぜおこったかというと、仕事がなくなった船大工が木工をはじめた。それぞれ別のテーマに入れるとぶつぶつに切れてしまうので、切れないようにするのが大事。時代を通覧できるけどテーマ性をもつようなストーリーを設定したいが、なかなか難しい。

事務局
他地域では、大ストーリーと小ストーリーに分けているところもある。

委　員
大事なことは、抜けてはいけない徳島市のモチーフを必ずおさえて、それから関連するものを派生させていくこと。例えば、徳島の中世にしても抜け落ちてはいけない柱をつくってそこから派生するものを入れていくという作業が大事。もちろん丈六寺は抜けてはいけないと思うが、義経などは皆が知っているが柱とは言えない。全体をみたうえで、ざっくりと徳島の歴史文化を語るうえでこれはなくてはいけないというものをおさえていきたい。

委　員
これは外せないというものを文化遺産リストからとって、それに肉付けしていくということはできるのか。

事務局
もちろん、そのような作業も大事だと考えている。

委員長
黒板に派生概念図を書いたらわかりやすいのではないか。

委　員
最近の世界遺産や日本遺産でも、結局どんなストーリーで人々を魅了するかにかかっている。ストーリーが一番大事なのでがんばってほしい。

以　上